

プレス公表（運転保守状況）

2020年2月27日

No.	お知らせ日	号 機	件 名	内 容
①	2020年 1月17日 1月23日 2月13日	7号機	非常用ディーゼル発電機（C）燃料 移送ポンプ（屋外）のケーブル損傷 の可能性について（区分：その他）	<p><b>【事象の発生】</b> 2020年1月17日、定期点検のために不待機としていた7号機非常用ディーゼル発電機（C）の燃料移送ポンプ<sup>※1</sup>（屋外）を点検していたところ、ポンプに電気を供給するケーブルの絶縁不良が確認され、ケーブルが損傷している可能性があることが分かりました。</p> <p>なお、7号機の他の非常用ディーゼル発電機（A、B）が待機中のため、保安規定に基づく機能要求（プラント停止中は3台のうち2台が動作可能）は満足しています。</p> <p>※1 非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ 非常用ディーゼル発電機の燃料である軽油を、屋外の軽油タンクから原子炉建屋内の軽油タンクへ移送するためのポンプ</p> <p><b>【原因】</b> 電線管の調査をした結果、ケーブル損傷箇所上部の電線管に損傷を確認しました。なお、当該箇所以外に損傷箇所はありませんでした。 直接的な原因は、2019年6月に竜巻対策として燃料移送ポンプエリア屋根設置工事を実施していた際<sup>※2</sup>に、コンクリート内支障物確認のための削孔作業により電線管並びにケーブルを損傷させたものと推定しています。 ケーブルを損傷させた後、当該箇所は電線管内の結露により絶縁抵抗が下がることがありましたが、定例試験により燃料移送機能が維持されていたことを確認していました。 上記の結露が発生する状況に加えて、2020年1月以降の竜巻対策工事による電線管の振動により、ケーブル損傷箇所と電線管が近接し、絶縁不良に至ったものと推定しています。</p> <p>※2 7号機軽油タンク燃料移送ポンプ（A）電線管の損傷事象（2019年6月4日発生・同年6月10日HP掲載）と同日に近接する当該箇所を削孔。</p> <p><b>【対策】</b> 削孔作業中および削孔作業後はファイバースコープ等により孔内状況確認を確実に実施します。 なお、2019年6月以降の屋外での埋設物近傍削孔作業においては、ウォータージェットによる削孔を採用し、埋設物を損傷させない工法としております。 また、損傷したケーブルについては、全て引き直しを行います。<sup>※3</sup></p> <p style="text-align: right;">（2020年2月13日までにお知らせ済み）</p> <p>※3 <u>ケーブルの引き直しによる復旧を3月末までに予定していましたが、ケーブル敷設ルート</u> <u>の確認に時間を要することから、3月末までにケーブル損傷箇所の交換を行い、次回定期</u> <u>点検に合わせて7月末までにケーブル全体の引き直しを実施することといたしました。</u></p>